

# 音楽科学習指導案

I 題材 世界の音楽

II 考察

1 題材観

(1) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

## ①知識及び技能

曲想と、速度・強弱・音の重なりなどとの関わりについての理解  
曲想に合った表現をするために必要な技能

## ②思考力・判断力・表現力等

聴き取ったり感じ取ったりして音楽を捉え、速度・強弱・音の重なりなどを工夫しながら合奏をしたり、日本と世界の国々の音楽を味わって聴いたりする力

## ③学びに向かう力・人間性等

日本や世界の国々の音楽に関心を持ち、主体的に合奏をする態度

(2) 学習内容：学習指導要領上の位置付け

A表現(2)ア 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように演奏するかについて思いや意図をもつこと。  
イ(ア)曲想と音楽の構造との関わり  
(イ)多様な楽器の音色や響きと演奏の仕方との関わり  
ウ(ウ)各声部の楽器の音や全体の響き、伴奏を聴いて、音を合わせて演奏する技能  
B鑑賞(1)イ 曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて理解すること。

(3) 題材の価値

本題材は、日本や世界の国々の音楽の響きを感じ取ったり、特徴を聴き取ったりしながら、曲想に合った表現を工夫し、合奏をする学習である。その価値は以下のとおりである。

曲想とは、その音楽に固有の雰囲気や表情、味わいのことである。同じ曲であっても、奏者が違ったり速度や強弱などを工夫したりすることによって、異なる曲想を生み出すことができる。

雅楽「越天楽」では、箏・篳篥・竈笛・琵琶・鉦鼓などの和楽器の音色が重なり、華やかで厳かな曲想を生み出している。それぞれの楽器の特徴的な音色を聴き取ったり、音が重なって生まれる響きを、正月や神社などで聴いた生活経験と関連付けたりしながら聴いたりすることは、雅楽の多様な楽器の響きについての理解を深め、日本の音楽を味わいながら聴くことにつながる。

イギリスの「バグパイプ」からは華やかな曲想、トルコの「メヘテルハーネ」からは勇ましい曲想、インドネシアの「ガムラン」からは神秘的な曲想、中国の「アルフー」からは穏やかな曲想をそれぞれ感じ取ることができる。それらの曲想が生まれる要因を考える中で、使われている楽器の音色に着目したり、世界の国々で演奏されてきた背景を想像したりすることは、世界の国々の音楽や文化に関心をもつことにつながる。

「コンドルは飛んで行く」の原曲は、最初はゆっくりとした速度で静かに始まるが、後半にかけて速度が上がり、手拍子やかけ声なども加わりながら、にぎやかな雰囲気終わる。曲想の変化から、コンドルが飛んでいる様子の変化を想像することができ、音楽表現も工夫しながら演奏したいという思いや意図をもつことができる。そして、リコーダー、鍵盤ハーモニカ、木琴、低音楽器などの音色や響きと演奏の仕方との関わりを考え、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けながら、表現の広がる楽しさや面白さを味わうことができる。

#### (4) 今後の学習

ここでの学習は、中学1年「日本の民謡やアジアの諸民族の音楽」で、日本やアジア諸民族の音楽の特徴を感じ取って、民謡にふさわしい発声や声の特性を生かして歌唱したり創作したりする学習へと発展していく。

#### 2 児童の実態及び指導方針

子どもたちは、6年「曲想を生かして」において、曲想と音色との関わりを理解し、楽器の編成や音色を工夫しながら演奏したり、曲想の変化を味わいながら聴いたりしてきた。この学習の中で明らかになった子どもたちの実態及び本題材を進めるにあたっての指導方針は、次のとおりである。

- ① 曲想と楽器の音色との関わりを理解してきている。このような子どもたちが、曲想と速度・強弱・音の重なりなどとの関わりを理解できるように、具体的なイメージと工夫の結び付きの振り返りをする時間を設定する。

曲想に合った音色で、全体の響きを聴きながら合奏をできるようになってきている。このような子どもたちが、曲想に合った表現で、全体の響きを聴きながら合奏をできるように、少人数、パート、グループ、全体と形態を発展させながら、合奏をする活動を設定する。

- ② 曲想の変化を感じ取り、表現したいイメージに合わせて楽器の編成や奏法を工夫してきている。このような子どもたちが、曲想に合った速度・強弱・音の重なりなどを工夫して演奏できるように、表したいイメージと工夫を整理しながら試行できる、模造紙と学習プリントを用意する。

曲想の変化を味わいながら聴くことができるようになってきている。このような子どもたちが、世界の国々の音楽の特徴を捉えながら、味わって聴くことができるように、使われている楽器や背景を手がかりに、世界の国々の音楽を聴き比べる時間を設定する。

- ③ 曲想やその変化に関心を持ち、友達と音を合わせて演奏する学習に進んで取り組んできている。このような子どもたちが、日本や世界の音楽に関心を持ち、楽しみながら合奏をする学習に主体的に取り組めるように、民族楽器を現地で演奏している様子が分かる映像資料を用意する。

### Ⅲ 目標及び評価規準

#### Ⅳ 指導計画 ※Ⅲ・Ⅳについては、指導と評価の計画参照

#### Ⅴ 本時の学習

- 1 ねらい グループの中で少人数に分かれ、様々な視点から自分たちのグループのイメージに合う工夫を試行することを通して、曲想に合った合奏をすることができる。

- 2 準備 既習の模造紙 拡大楽譜 学習プリント 木琴 マーチングキーボード マレット

- 3 本時に想定した躍動をする子どもの姿

自分たちのグループのイメージに合う速度・強弱・音の重なりなどの工夫を、既習事項や、自分や友達の演奏から考え、言葉で伝えたり、音や演奏で伝えたりしている姿。

- 4 展開

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 僕たちは、コンドルの「力強く羽ばたく」イメージや、「上空へ舞い上がっていく」イメージなどを考えたな。強弱を工夫すると表現できるのではないかな。</li> </ul>	<p>①グループのイメージに合う工夫を考えながら合奏をするという見通しがもてるように、全体で合奏をした後、グループの表したイメージの達成度と視点「イメージを伝えるための音楽表現の工夫」を問いかける。</p>
<p>めあて グループのイメージに合った合奏をできるように、速度・強弱・音の重なりなどを工夫しよう。</p>	
<p>2 小集団に分かれて、速度・強弱・音の重なりなどを工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コンドルの「力強く羽ばたく」イメージを表すには、はっきりした強さで演奏するとよいと思うよ。友達の速く演奏するというのもよさそうだな。</li> <li>・ 速く演奏するより、はっきりした強さで演奏した方が「力強く羽ばたく」イメージが表せていたね。線で結ぼう。</li> <li>・ 別の3人組に、僕たちの強弱の工夫が表したいイメージに近付いていると共感してもらえたよ。「羽ばたく」感じを出すために、リコーダーは軽く吹いたらよいとアドバイスをしてもらえたよ。</li> <li>・ リコーダーには軽く息を入れて、他の楽器はしっかりとした音で、もう一度合奏をしてみよう。</li> </ul> <p>3 グループで工夫した合奏をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ グループでは「上空に舞い上がっていく」イメージが表せるように、クレッシェンドの工夫をした友達もいたのだな。友達の工夫も生かして合奏してみよう。</li> </ul> <p>4 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ はっきりとした強さや、楽器の音の量のバランスを工夫して合奏したら、「力強く羽ばたく」イメージが表現できたな。</li> <li>・ 次回は、コンドルの飛ぶ様子がより伝わるような、工夫をできるようにになりたいな。</li> </ul>	<p>○グループのイメージに合う工夫を試行できるように、グループの中で更に少人数に分かれて、それぞれの考えを伝え合うよう促す。</p> <p>②少人数で考えた工夫と、イメージとのつながりが実感できるように、試行する中で、イメージに対する工夫の有効性を振り返るよう助言する。</p> <p>②少人数で考えた工夫のよさや課題に気付けるように、お互いに考えた工夫を共有する機会を設定し、イメージと工夫を結び付けた学習プリントを基に聴いて、アドバイスをしよう促す。</p> <p>○表したいイメージに合った表現を高められるように、アドバイスを受けて変えた工夫を、再度少人数で試行するよう促す。</p> <div data-bbox="767 1272 1401 1473" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">— 評価項目 —</p> <p>曲想に合った速度・強弱・音の重なりなどについて発言したり、工夫して演奏したりしている。  <span style="float: right;">&lt;表現・学習プリント②&gt;</span></p> </div> <p>○少人数で考えた工夫を生かして、グループ全員で、イメージに合う合奏をすることができるように、工夫をグループ内で共有してから合奏をするよう助言する。</p> <p>○グループのイメージと、速度・強弱・音の重なりなどの工夫とを結び付けて理解できるように、工夫したこととそれによって表現できたことを問いかける。</p> <p>○グループのイメージに、より合った合奏をしたいという意欲がもてるように、様々な工夫をし、表現の変容が生まれたことを称賛する。</p>



指導と評価の計画（全8時間）

目標	日本や世界の国々の音楽の響きを感じ取ったり、特徴を聴き取ったりしながら、曲想に合った表現を工夫し、合奏をする。				
評価 規準	(①知識・技能)曲想と速度・強弱・音の重なりなどとの関わりを理解し、パートの役割を意識しながら合奏をしている。 (②思考力・判断力・表現力等)日本や世界の国々の音楽の響きや特徴を感じ取り、曲想に合った表現を工夫したり、世界の国々の音楽の特徴を捉えながら、味わって聴いたりする。 (③主体的に学習に取り組む態度)日本や世界の国々の音楽の響きに関心をもって、主体的に聴いたり合奏をしたりしようとしている。				
教材	ア…【鑑】雅楽「越天楽」から 日本古曲 イ……越天楽今様 慈鎮和尚作歌 日本古謡 浦田健次郎編曲 ウ…【鑑】世界の国々の音楽 ・バグパイプ（イギリス） ・メヘテルハーネ（トルコ） ・アルフー（中国） ・フォルクローレ（ペルー、ボリビア） ・ガムラン（インドネシア＜バリ島＞） エ…コンドルは飛んで行く ダニエル ロブレス・ホルヘ ミルチベルグ作曲 橋本祥路編曲 ニ短調 4分の4拍子				
過程	時間	配分	学習活動	指導上の留意点	評価項目＜評価方法（観点）＞
つか かむ	1	アイ	○「越天楽」を聴いたり、「越天楽今様」を歌ったりする。	○曲想と楽器の音色や奏法とを関連付けて聴けるように、雅楽の合奏と音取（ねとり）の映像資料を用意する。	◇日本の伝統的な音楽に関心を持ち、曲想と楽器の音色や奏法との関わりを理解し、その特徴を発言したり記述したりしている。 ＜発言・学習プリント②＞
	1	ウ	○世界の国々の音楽を聴き、『世界の音楽の特徴を生かしながら合奏をしよう』という題材のめあてをつかむ。	○世界の国々の音楽の曲想と音色等との特徴を関連付けられるように、使われている楽器や背景を手がかりに世界の国々の音楽を聴き比べる活動を設定する。	◇世界の国々の音楽の特徴を味わいながら関心をもって聴き、曲想と音色との関わりについて発言したり記述したりしている。 ＜発言・学習プリント＞
追 求 す る	1	エ	○「コンドルは飛んで行く」を聴いたり、旋律を鍵盤ハーモニカやリコーダーで合奏したりする。	○「コンドルは飛んで行く」の曲のイメージから、思いや意図をもてるように、アンデスの様子やフォルクローレを演奏している様子が分かる映像資料を用意する。	◇コンドルが飛んでいる様子や、その様子を表現するための思いや意図を持ち、発言したり記述したりしている。 ＜発言・学習プリント②＞
	1		○「コンドルは飛んで行く」の各旋律を演奏し、演奏するパートを決める。	○旋律の特徴を捉え、パートごとに合奏をできるように、それぞれの旋律を演奏した後、パートを決める時間を設定する。	◇旋律の特徴を捉えて、パートごとに音を合わせて演奏している。 ＜表現①＞
	1		○グループごとに「コンドルは飛んで行く」の表したいイメージを考えながら合奏をする。	○パートの役割を意識し、グループごとに表したいイメージを考えながら合奏をできるように、パートの人数や音量を変えて、合奏を比較する活動を設定する。	◇全体の響きを聴き、パートの役割や表したい音楽表現について考えて発言したり、音量のバランスを工夫しながら演奏したりしている。 ＜表現・学習プリント②＞
	2		<b>○グループごとに「コンドルは飛んで行く」のイメージに合った音楽表現を考えながら合奏をする。 (1/2本時)</b>	○表したいイメージと速度・強弱・音の重なりなどの工夫を整理しながら試行できる、模造紙と学習プリントを用意する。	◇表したいイメージに合った速度・強弱・音の重なりなどの工夫について発言したり、工夫して演奏したりしている。 ＜表現・学習プリント②＞
ま と め る	1		○「コンドルは飛んで行く」の演奏会を行う。	○表したいイメージと速度・強弱・音の重なりなどとの関わりを理解し、合奏をできるように、グループ同士で演奏を聴き合い、評価し合う時間を設定する。	◇世界の国々の音楽に関心を持ち、イメージをもって演奏したり、演奏を聴いてよさを感じ取って伝えたりしている。 ＜表現・学習プリント③＞